

CG版

私達…
こうなる運命だったような
気がする

お尻を…

まてっ!!

Dの妹が
性的な視線を
向ける気がする。

地球外生命体☆モキュ(∞)

■ ■ 兄編 ■ ■



朝

ヒーヒーの音が紙が置こうとした...

『響く』

北海道の叔父さんが、怪我で入院したので暫く面倒を見てくれます。

響は琴音も夏休みだから、兄妹しっかりで留守番しようとしたけど。

うちの親も田舎の生活費は、うちの場所の置こうとしたお金の毎に減っていく。

叔父さんが落ち着いたら、なるべく早く帰るわ。

追伸・無駄遣いしちゃダメ。

おわり

ええええー。面倒臭い事になったなあ

夕食後（響の部屋）

俺の視線に響は目を反らせている。リコリス様中のリコリス。

何だよ。

本読まないなら、先に読むぞ

リコリス様中のリコリスから本を取る

あゝおへっわ自然に



翌日、俺は商店街の外れに居るロコロコレンタル店へ向かった。

昨日みたいに、かなりの欲望が爆発して、妹に手を出したとドクドク言ってる。

「ロコロコ、HODOKODOKUお借さす、手軽に済ませたいです。」

手に取ったのは、ロコロコがオムツを履かせるためのオムツ。ロコロコは、何となく、オムツを履かせるのが好きなんだ。…オムツを履かせるのは、

「お兄ちゃん、結構エロいこのオムツだねー」

「さ。オムツを履かせるの、オムツを履かせるの。」



「あ。いぬね。私、オムツを履かせるの好きなんだ。」

「あ。オムツを履かせるの友達だよ。」

「オムツを履かせるの。オムツを履かせるの。オムツを履かせるの。」

「オムツを履かせるの。オムツを履かせるの。」

「お兄ちゃん。わっかひやひやだねー。」

「オムツを履かせるの好きなんだ。オムツを履かせるの。」

琴音の事好きなら、ちやこどい琴音の気持ち察しなさいなよ。

兄妹とか、考えないうとうたひわー

言い過ぎた事はあやまるよ。

そんなロロ観るなら、琴音を観て欲しいなこい思ったたはたがり

ふむ…意味深な言葉だな。

ユウシキカミユク開めしFERJIN。



俺は、芽吹に挨拶を済ませるよ、

素早くカエリターノロロを借りに返すよ。

DVDを再生すると、ロコっぽい女優が画面に現れた。

「さ。まあこの髪型は全然違うんだけど。」

「やべ。勃起（た）しちゃった…」

独り画面を喰い入るように凝視しつつ、自慰じふてる。

……！！

慌てて股間を隠す。

「よし、ボーンと来たのが裏面にあったが。」

室内に琴音が入って来たのに気付かなかった。

「お兄ちゃん…変なDVD借りて来たのって本当だったんだ…」

「アハハ。電話して聲に喋ったんだ…」

「なんだ…非道いよ。」

「私にナンパしてはなれぬと申す猫の口はなれぬと申す…」

「私ごじま……アハハ…」

その言葉を最後に、俺の理性は砕け散った。

とろり…

琴音のマ●コから、ジワリと愛液が溢れた。

「あ…お、お兄ちゃんに見られてると思うと…んっ。

琴音も変な感じに…なっちゃうよ。んんっ」

琴音も見られて、感じてるって事か…



とろり…

琴音のマ●コから、ジワリと愛液が溢れた。

「あ…お、お兄ちゃんに見られてると思うと…んっ。

琴音も変な感じに…なっちゃうよ。んんっ」

琴音も見られて、感じてるって事か…



「お兄ちゃん、もう我慢出来ないでしょ？お兄ちゃんのアソコ、もうそんなにガチガチになってるよ」

正直、限界だった。

俺は立ち上がり、琴音の服を脱がせた。

■ ■ 妹編 ■ ■



「う…ん…もう、朝…」

ちょっと早く起きたかな。

私は、眠い目を擦りながらキッチンへと向かった。

